



池下整形外科クリニック(上田5丁目)  
院長 池下 榮一

### PCR検査って何？信用できるの？

PCRはポリメラーゼ・チェーン・リアクション(ポリメラーゼ連鎖反応)の略です。この反応はウイルスの遺伝子の特定の部分を検出することができるのでこれを利用して、新型コロナウイルスの遺伝子を検査することで診断をつけることができるのです。

新型コロナウイルスの検査はほかに検査の選択肢が少ないのでこれが主流となっております。PCR検査は100%確実に新型コロナウイルス感染症にかかっていることは診断できません。多くの問題点がありますが、その中の一つPCR検査の精度について説明します。精度は“感度”と“特異度”で評価されます。感染している人を正しく陽性と判定できる確率を“感度”といい、感染していない人を正しく陰性と判定できる確率を“特異度”といいます。現在行われているPCR検査の感度は約70%で特異度は約99%と言われております。分かりにくいので人口は約10万人の都市を例にとって説明しましょう。そのうち1%が感染していたとして10万人全員にPCR検査をしたと仮定しましょう。(100000×0.01=1000)1000人が感染しているにもかかわらず、感度は70%なの

で30%の人(1000×0.3=300)300人が本当は陽性なのに陰性となってしまいます。これを偽陰性といいます。特異度は99%なので1%の人(感染していない人99000×(1-0.99)=990)990人が本当は陰性なのに陽性となってしまいます。これを偽陽性といいます。300人の偽陰性の人は自由に行動ができるので、感染をさらに拡大してしまうのです。一方偽陽性の990人は隔離され仕事もできなくなってしまうのです。PCR検査が精度100%ならすべての人を検査すれば、確実に新型コロナウイルス感染症の人を特定し隔離できるのですが、現在のPCR検査の精度が100%でないので無症状や軽い風邪症状だけの人を検査すればするほど、偽陰性や偽陽性の方が増えてしまうのです。明らかに症状があり、診察により新型コロナウイルスの感染が高いと事前に診断されて行うPCR検査は確定診断をつけるのには有効であると考えられます。

今回のような未知のウイルスの世界的流行において感染者を特定する目的としては慎重に検査を実施しなければならないのではないのでしょうか？

### 「障害者雇用支援」-ノーマライゼーションへの取り組み- KIGYOUサバイバー

市では、産業振興施策の充実を図るため、市内で、若者・女性・障害者などの雇用の推進や従業員が働きやすい環境づくりに取り組んでいる企業について事例を紹介しています。

第2回目は、障害者雇用に注力している株式会社あじみ屋に取材しました。詳細は、市ホームページをご覧ください。

【問】産業振興課



株式会社あじみ屋(柿千)  
代表取締役社長 清水幸隆さん



労働



家庭で廃棄する未使用の食品や  
食べ残しを記録する日記



【問】環境政策課

「食品ロス」とは、売れ残りや食べ残し、賞味期限切れの食品など、本来は食べることができたはずの食品が廃棄されることをいいます。  
食品ロス削減のためには、まずは家庭からどのくらい食品ロスが発生しているのかを把握するのが第一歩です。「食品ロスダイアリーアプリ」は、自宅で発生する食品ロスを記録し、買い物習慣や料理のやり方を考えるきっかけになりますので、ぜひ活用してください。



環境

【時】とき 【所】ところ 【内】内容 【講】講師 【対】対象 【定】定員 【¥】費用 【保】保育 【備】備考

13 【申】申込み 【問】問合せ 【主】主催 【後】後援 費用・対象の記載がないものは無料・誰でも可